

屋根葺現場を支える緑の下の"8割"

ひやだ ころし
 檜皮の拵え

現場の屋根葺作業の前段階である「拵え」の作業が、屋根を作る全体の工事量において8割を占めているといわれる。
 華々しい現場の作業の裏には、地道な準備段階が隠れている

山から採集してきた檜の皮(原皮)を、屋根葺材として使うに適切な厚さ、形に整える作業。平隅・谷・軒付など、それぞれの場所に応じた必要な形・量の皮を拵えいく。

檜皮は経年で油気が抜けてしまうため、長期保管は無理

児島工務 児島化

座り仕事なので若い人には取付き難い仕事
 後継者育成が課題



- *特殊な長さ(厚さ)で葺く建物もある
- ex) 清水寺: 3尺2寸, 厚め
- 吉備津神社: 3尺
- 出雲大社: 4尺以上



アテ [材質: 松 or ヒノキ] x 杉
 庵下で原皮を加工する際の土台
 "庵下研ぐ削アテ濡らせ"

出雲や清水のような大規模建物の葺き替えの際には、一社だけでは材の調達に困難。各社で作りためておき、協力して調達する

庵下の形状と役割(使い方)

